

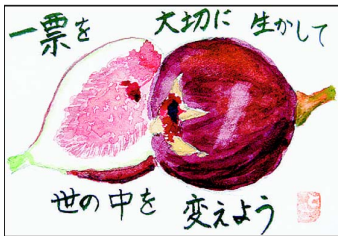
# 新婦人しんぶん

## 新日本婦人の会目的

- ☆核戦争の危険から女性と子どもの生命をまもります。
- ☆憲法改悪に反対、軍国主義復活を阻止します。
- ☆生活の向上、女性の権利、子どものしあわせのために力をあわせます。
- ☆日本の独立と民主主義、女性の解放を勝ちとります。
- ☆世界の女性と手をつなぎ、永遠の平和をうちたてます。

## 今週の紙面

■2面 アフガニスタンの女性はいま／女性ニュース ■3面 読者のページ／主張／母の歴史／短歌／まんが ■4面 フラワーアレンジメントで野の花を／遊びで育つ



大阪・枚方市 城戸トシ子 (80)

新日本婦人の会は国連に認証されたNGOです



今夏、ギリシャ・アテネ北部で起きた山火事。荷物を持って安全な場所に移動する人々 (C) Angelos Tzortzinis/picture alliance/Getty Images

## 気候危機

# 2030年までがカギ

# 私たちに求められる対策とは

日本では40℃を超える酷暑や観測記録を塗り替える大雨。アメリカの北西部沿岸とカナダ、カリフォルニア州、地中海沿岸などの温帯地域では50℃前後の熱波。ヨーロッパ、中国では豪雨による大洪水の発生。大規模な森林火災や氷河や氷床の溶解等の増加など…。激しさを増す極端な現象も、気候危機の始まりに過ぎないと指摘されています。危機的事態を克服するためにできることは何か？ 和歌山大学客員教授の和田武さんに聞きました。



和歌山大学客員教授  
元日本環境学会会長  
自然エネルギー市民の会代表

和田 武さん

Q. 国連のIPCCは気候危機を招いたのは、「人間活動によるもの」と断定しましたね。

1回程度起きた強烈な熱波が、今後、世界の平均気温が1.5℃上昇すると4.1回、2℃上昇では5.6回、4℃ならば毎年の9.4回も襲うと予測しています。また

海中でも、多様な生態系の中心を担うサンゴは1.5℃上昇で70〜90%が失われ、2℃上昇するとはほぼ絶滅すると言われて

います。将来予測で重視すべきなのは、温

海中でも、多様な生態系の中心を担うサンゴは1.5℃上昇で70〜90%が失われ、2℃上昇するとはほぼ絶滅すると言われて

和歌山大学客員教授の和田武さんに聞きました。

19世紀後半に10年間に

※IPCC 世界気象機関と国連環境計画により1988年に設立。現在参加する195カ国の政府から推薦された科学者が、地球温暖化に関する科学的・技術的・社会経済的な評価を行い、報告書にまとめている。

表1 2030年までの各国の温室効果ガス削減計画  
～非常に低い日本の目標～

国・地域	温室効果ガス排出ゼロ目標年	2030年削減目標	基準年	2030年再生可能エネルギー電力導入目標
EU	2050年	▲55%	1990年	57%
ドイツ	2045年に前倒し	▲65%	1990年	65%
英国	2050年	▲68%	1990年	—
米国	2050年	▲50～52%	2005年	35年までに電力部門でのCO <sub>2</sub> 排出0
日本	2050年	▲46%	2013年	36～38%

→1990年比換算で▲40.3%

「逆現象」が発生することです。今もシベリア等の永久凍土地帯で土壌中の有機物の腐敗が進み、CO<sub>2</sub>やその20倍以上の温室効果があるメタンが大量に放

Q. このままでは10年弱でCO<sub>2</sub>など温室効果ガス排出許容の上限に達すると言われます。

和田 国際社会はパリ協定を発効させ、気温上昇を2℃未満、さらに1.5℃未満の抑制に努める目標を設定しました。

〈2面へ〉

9月の新婦人しんぶんは、毎号4ページで発行します

